

## ◆ まちづくり講演会を聴講して ◆

### テーマ：これから地域づくりに向かって

～市民参加の意義と課題～

日時	2011年 11月 12日
場所	マルチメディア情報センター
講師	関谷 昇 先生

#### 1 見直しが迫られている自治体運営

1990年代以降は、行政がやれることは限界がある時代に入ってきて、中央による地方への再配分政策の限界から地方分権改革に舵が切られ、行政によるリスク負担の限界から新しい公共の流れが生まれました。画一的な行政と多様な現場とのずれから市民参加・地域活動の充実が叫ばれ始め、公共性をめぐる考え方の変化から「開かれた公共性」の創造へ大きく動き出しました。

行政が担うものとしては、必要最小限度の生活支援。社会が担うべきことは、市民の自発的な活動、経済活動、自治活動、市民・民間による公共サービスの主導と創造、社会資本（人、物、金、情報）の有効活用などが挙げられます。

#### 2 市民参加・協働の考え方

市民相互で支えあう「共助」の可能性については、共助の支え合いが市民の生活を支え現状認識、課題発見、扱い手の創出につながり、自分が楽しみながらやる活動が他人の支えになるという面白さをつくります。

自治体づくりを支える「地域力」への期待は、何かをやることがまた何かを生み出すというスペイクルのほか、地域資源の循環を自治体の内外に創出していくことを通じて、地域力とその活性化を育み行政には創り出せない地域力が魅力です。

#### 3 地域コミュニティの行方

地域の課題の解決にあたっては、地域コミュニティに依存するところが多く、問題を抱える当事者への接近が可能であり、地域状況や生活習慣及び隣関係を考慮した高齢者や障がい者などに個別に対応し得る支援体制が必要とされています。

また、市民活動・地域活動の「持続性」が着目されています。これは、住民相互の「多角的な支え合い」を生み出す社会基盤であり、個々の団体活動が地域に定着することによって持続性が拓かれ、公と私をつなぐ新たな公共としての役割を持つとされています。

### ◆ 地域協議会活動報告（後期）◆

10月	11月	12月
アンケート調査に関する協議 「高齢化社会になりどんな困りごとがあるのか」、また「地域交通に関するどのように考えているのか」等を把握するための方法を協議しました。	塩田地区自賛会連合会との懇談会 塩田地区正副自治会長49名の出席で懇談会を開催しました。協議内容は「困りごとアンケート調査」、「地域公共交通に関する調査」を依頼するとともに調査方法を協議しました。その他自治会からはアレチウリ、有害鳥獣の問題、役員選出に苦慮していること、東塩田小学校体育館改築の早期着工の要望等発言がありました。	都市計画道路の進捗状況について 上田市土木課より、都市計画道路「吉田富士山線」の説明を受けました。他に塩田中学校の外構工事について平面図にて説明を受けました。
地域の課題について 各自治会長に依頼した「塩田地域公共交通に関する調査」の結果報告を受け、今後どのように取り組むかを協議しました。	「わがまち魅力アップ応援事業」の実績発表会 9自治会と3市民団体の事業活動報告とその成果と今後の課題・取り組み等を聴きました。	「わがまち魅力アップ応援事業」審査「高齢者困りごと」と「塩田公共交通」に関する意見書について

## ◆ 各委員会報告 ◆

### ◇ 地域交通委員会

今まで塩田地域の公共交通に関しては、地域住民や団体組織としての意見や取り組みが“声”としてあまり上がったことがなかったのが実態と思われます。地域交通の充実を目指すべく広く住民の声をお聞きし、これから具体的な取り組みとするため、地域協議会では「塩田地域公共交通に関する調査」を実施しました。その結果別所線電車は地域住民の足、環境に配慮した乗り物としての価値、文化的、観光資源として将来にわたって残すべきであり、一方バスについては乗客の減少、経営状況、住民の関心等から極めて現状は厳しいが、住民の立場からも最低限度の運行は維持しなければならないと思います。

今後は住民自らの問題として捉え、行政・会社・住民が連携なくしては維持や改善はありません。早々に関連機関や団体等との合意を得ながら、塩田地域における（仮称）「公共交通利用促進協議会」を発足して、地域交通の充実に向けた具体的な方策を検討すべきと考えます。

### ◇ 地域振興委員会

高齢化社会の進行が著しい今日、将来を見つめての地域振興策が重要になります。その根幹としては、全ての住民が「この塩田に住んでいてよかった」と思われる事が大切な要素となります。

私たちは、隣近所・地域全体が、お互いを「思いやり」、「思われる」そんな地域づくりを目指した活動を心掛けています。

今年度は、全自治会にお願いして、75歳以上の高齢者を対象に「困りごと」アンケート調査を実施しました。高齢化が進む一方で高齢者対策や震災等への対応を思うとき、今本当に何が必要かをアンケート調査から拾い出して、それに基づいた地域づくり、まちづくりを提案しています。

### ◇ ため池活用委員会

平成22年度より取り組んでまいりました塩田平のため池活用事業は、今年度の「わがまち魅力アップ応援事業」に採択され、塩田自治連をはじめ、ため池管理団体の皆様の御理解と御協力を頂く中で進めてまいりました。10月には「ため池の案内看板」の設置と、塩田地域の活性化の一助として「ため池マップ」を作成して全戸配布しました。

併せて「塩田平の札所めぐり」もマップに入れましたので、ご活用いただければ幸せであります。

### ◆◆ 塩田中学校改築事業の進捗状況のお知らせ ◆◆

塩田地域協議会としても見守ってきました塩田中学校の改築事業は、第2期工事が終了して1月20日には完成した屋内練習場にて上田市長をはじめ関係者、全校生徒が参加して盛大に竣工式が行われました。

今後は、第3期工事として校庭をはじめとする外構工事が行われます。中学校の学校開放日には新しくなった校舎を見学に行ってみませんか？

### ●●● 塩田平の民話・伝説シリーズ・・・その3 ●●●

元禄2年（1689年、江戸時代のことです。下之郷山の方からたくさんの中の猪が駆けて田んぼを荒らし始めました。田んぼの稲を守ろうと、一人のお百姓さんが玉の入っていない鉄砲を一発打ったところ、驚いた猪は小島村の大池へ飛び込んでしまい、22匹のうち5匹が溺れて死んでしまいました。

村人はこのことを上田藩のご奉公様へ報告したところ、「大池の東にある長池に猪の死骸を丁寧に埋めて、その上に猪が死んだ理由を書いた木札を立てなさい。」と命じられました。

なぜ猪のためにこれほど大騒ぎになったのかは、当時徳川幕府の將軍綱吉が動物に危害を加えたり、殺したりした者には重い罰を与えるという「生類あわれみの令」を出していましたからです。



# 平成 23 年度塩田地域「わがまち魅力アップ応援事業」

この事業は平成 20 年度から始まり、地域の課題解決や活性化のため、自主的・主体的に取り組む地域づくり活動を補助金により応援しております。自治会対象の補助限度額は、150 万円で、補助期間 2 年以内とされております。

**個性あるふるさとづくり応援事業一覧表（自治会対象）**

No.	事業名	自治会名	事業内容	成果・課題
1	農地の荒廃をなくし、そば生産による自治会の活性化	富士山中組	自治会内の畑を荒廃させないようにし、そばの栽培を行い、後継者へ引き継ぐ。子供達への農業指導、「そば祭り」を開催し、融和・活性化と地産地消の推進を図る。	・自治会内で高い評価をされて、当初 8 名の会員が、23 名となつた。 ・補助金が今年度で終わり、今後の維持の課題が残る。
2	下本郷地区花と緑の街づくり	下本郷	道路沿いや自治会施設を花等の植栽をし、その作業を通して子供からお年寄りまでふれあいと活性化と環境美化に寄与する。	・11 年間続いている事業で、補助金を受け、散水施設や培養土の機械が備えられた。 ・音楽会や落語会の開催をとおして、地域の繋がり、楽しみが出来た。
3	文化に親しみか会	五加	「文化がある五加自治会」を形成すべく、かつての盛進の心意気も感じてもらう活動。	・今後も継続予定
4	ふれあい・助け合いの郷下之郷自治会を IT 技術導入で実現	下之郷	・H22 年度 歴史マップ作成。 ・H23 年度 歴史マップを DJI 化して、各家庭に配布。	・今後は、住宅基本地図の変更、修正を毎年末に変更箇所等を書き配布する。
5	みんなで進める身近な生き物調査・自然豊かな地域づくり事業	セーラーハウス木沢	地区内の身近に生息する動植物を知り、活動や追跡調査を子供達と行うことで、自然を知り、心の豊かさ、ふるさと意識の醸成を図る。	・花や鳥の力レンダーを作成し、全戸配布した。 ・自然観察会他にも参加者が増え、活動が定着してきた。
6	西前山地区の地形を活用したふるさと愛あふれるアヤメの里事業	西前山	総延長 1,500m の農道脇等にアヤメを植栽し「アヤメの里」を造る。その共同作業により絆や結束力を高め、ふるさとを愛する心を育み、重要な文化財の実現を図る。	・アヤメの里事業は、老若男女誰でも参加できる行事として、今後の取り組みに期待が出来る。
7	八木沢自治会	八木沢里山公園	東屋建設、第 1 回・2 回里山公園草花観察会、多目的コート造り、遊び場に鉄棒造り、遊歩道造りなどして、新年 1 月 1 日には、区民で初詣会を開催した。	・何十年ぶりかで、区民の親睦が計れた。 ・今後は、遊歩道の完成や植樹をする予定。 ・地元資金も捻出したい。
8	水・環境を守る癒しの里手塚自治会	手塚	昭和 30 年頃は、螢が乱舞する里だった。再びそんな光景を次世代に伝えるべく、ワークショップをして、舌喰池敷地内に自然型螢水路を整備した。	・子供も螢について関心をもち、川を汚さない意識の高揚となつた。 ・螢観賞会も恒例となつている。
9	野倉街道ふれあい花壇づくり事業	大湯	大湯地区住民の世代間交流を目的とし、植樹や庭石を配置して、和風庭園式に完成。観光客のおもてなしの心で行った。	・観光客も徐々に増えている。 ・今後は、初夏の花壇づくり維持管理に力を入れたい。

**特色あるまちづくり事業一覧表（市民活動団体対象）**

No.	事業名	団体名	事業内容	成果・課題
1	地域の遊休荒廃農地を復元し、憩い空間と安全安心な環境をつくる	鈴子健康栽培クラブ	地域の遊休農地を借受、復元するため、大勢の散歩道である来光寺池周辺に菜の花を作付け、休憩所を設置し、憩い空間づくりを行った。耕地面積 22,000 m <sup>2</sup> に菜の花・ゴマ・エゴマづくりを行った。	・クラブ員の高齢化、ボランティアでは、人員の補充が出来ない。
2	憩いの公園プロジェクト	ナチュラリストクラブうえだ	自然運動公園内の荒廃地の再生及び整備を行う。ブーリ横からの出口・体育館へのアプローチの花壇化、屋外ベンチの修理、トレッキングルートの整備を行う予定。	・開墾して花壇にしたところもあるが、整備後は、気持ちが良い。 ・大勢の方に観賞して欲しい。
3	塩田のため池活用事業	塩田のため池活用委員会	ため池の有する重要性と多様な役割を再認識し、ため池立看板・ため池マップの作成をした。	・四季折々の塩田平の素晴らしい景色を知つて欲しい。 ・池巡りの方も増えている。

## 地域協議会 6 年間の活動と今後について

平成 18 年の新上田市誕生にともない、地方自治法の規定により、地域の重要事項の決定に市民の意見や要望をより反映させるため、9 つの地域協議会の一つとして塩田地域協議会も立ち上りました。地域協議会は、20 名以内の委員で構成され 1 期 2 年の任期（最大 3 期 6 年）と規定されています。より多くの多様な人々に協議会に携わっていただき、本当の意味での地域興しや、「住んで良かった」といわれるような地域にするために審議、調査研究を加え、行政に働きかけて、一層地域分権型社会の実現を目指すことを目的にしています。

この 3 月で 3 期 6 年となるわけですが、1 期目にまとめた「地域まちづくり方針」を基にこれまで活動を行ってきました。そんな中で、地域の核となる地域自治センター建設、塩田中学校全面改築、別所線電車の存続、景観条例の早期制定、わがまち魅力アップ応援事業を活用しての地域振興、観光資源の掘り起こしや利活用などを地域の課題と捕らえて、真剣に前向きに取り組んできました。

これらについては、住民のまとめ役である自治会組織の協力が必要不可欠になってしまいます。常に自治会連合会と連携をとり、確実に事業を進めています。

今後は、塩田地域を今まで以上に人々に愛され、親しみのもてる地域にしていくためには、まだまだ多くの課題が山積しています。自治会はじめすべての組織と意思の疎通を図り協働により、塩田の将来展望を見据えた活動を展開していく予定です。

塩田地域協議会 会長 大口 義明

## 地域協議会との懇談会に参加して

平成 23 年度の塩田地区自治連会長を拝命して、3 地区連の連合会長と意見交換をする中で、

塩田地域全体の課題である少子高齢化対策、地域公共交通の充実、幹線道路の整備、公共施設の老朽化などの様々な悩みや課題が山積している事がわかりました。

現状の 4 自治連は、各地区に伝統と歴史があり、組織構成も異なるために、4 自治連会長間で意思統一を図って、各自治会に伝達しても意思の疎通を図る事は大変難しいと思いました。

そこで地域協議会は、行政と地域住民の接点である立場と役割を住民に周知するために、自治連との連携を更に強化して頂きたいと思います。

そのためには、塩田地域の各団体代表と直接話し合える懇談会の回数を増やして、多様な意見を吸い上げ分析をして、目指す「分権型自治」へ反映させて頂きたいと思います。

そして、塩田地域のあるべき姿や方針を策定して頂き、4 自治連を中心とした住民自治組織で取り組むことを期待します。

平成 24 年 3 月 15 日発行  
発行元 塩田地域協議会  
事務局 塩田地域自治センター  
電話 (0268) 38-3000

高齢者を対象に「困りごと」のアンケートをお願い致しました。人は生きていく上で、どのような形にせよ「老」と向かい合わなくてはなりません。私達一人ひとりが、どんな手助けが出来るかを考え、多くの高齢者の方が安心して暮らせる地域づくりに頑張りたいですね。

## 編集後記

塩田地域協議会では、一人でも多くの高齢者が、健康で快適な生活が送られるように 75 歳以上の高齢者を対象に「困りごと」のアンケートをお願い致しました。人は生きていく上で、どのような形にせよ「老」と向かい合わなくてはなりません。私達一人ひとりが、どんな手助けが出来るかを考え、多くの高齢者の方が安心して暮らせる地域づくりに頑張りたいですね。